

(注) 記事中の「今月」や月表記のない日付の表記は、9月を指します。

① 学生がカンボジア・バタンバン市で家造った際、工夫したことを記事の中から抜き出しましょう。

② 記事の中から、日本と海外の違いが分かる部分を2か所抜き出しましょう。

③ 国内外を問わず、あなたが大学に行ったり社会に出たときに、人のためにやってみたいことを考えてみましょう。

カンボジアの低所得者のため、家を建てるボランティアに汗を流す学生たち=8月、カンボジア



別府市の立命館アジア太平洋大学(APU)の学生団体「ハビタットAPU」が海外の貧困地域で家を造る活動を続けている。今年8月下旬に12日にわたってカンボジアに滞在し、建築作業に汗を流した。今月14日から25日まで、自転車に乗って福岡県や佐賀県を巡り、世界の貧困問題を伝える旅を続けている。

# 貧困地域に家を

## 学生団体「ハビタットAPU」



世界の貧困の状況を伝える自転車の旅の前に張り切る「ハビタットAPU」の学生たち

## 海外に滞在し 大工らと作業

8月20〜31日、カンボジアのバタンバン市を学生10人が訪問した。家主となる自立を目指す女性や現地の

大工と共に作業。大雨による水害が心配される地域で、浸水を防ぐ特殊なプロック塀を積み上げた。作業ははかどおり、屋根などを残してほぼ完成させた。

## 現状伝える自転車の旅も

今回のプロジェクト代表を務めた北川楓子さん(アシア太平洋学部3年)は「ラ

14日からは、25日までの計画で学生13人が福岡、佐賀県の約600キロを自転車で移動。高校・大学5校を訪れて、今回のカンボジア訪問を含めた貧困問題を伝えていく。家の大切さを実感しよう、道中の多くは野宿で過ごすという。

リーダーの城戸美智夏さん(同2年)は「世界の4人に1人はきちんとした家に住めていないという現状がある。貧困問題に興味を持つてもらうきっかけにしたい」と話していた。

「ハビタットAPU」は低所得者に安心して安価な住居を提供する国際NGO「ハビタット・フォー・ヒューマニティ」(本部・米国の学生支部。2006年に設立し、これまでにインド、スリランカ、フィリピンなどを16回訪れ、家を造った。

(2016年9月23日付朝刊別府面)